

平成25年度 第1回 わくわく市民懇談会

- 1 日 時 平成25年4月22日（月） 午後6時～午後7時26分
- 2 場 所 JA中野市 倭事業所 2階 会議室
- 3 出席者 倭地区の住民、農業者、市議会議員、JA／地区役員、各団体長 47名
市長、随員職員
- 4 次 第
 - 1) 開会（滝澤農家組合長会長）
 - 2) 主催者代表あいさつ（永沢市議会議員、JA中野市 山田倭地区代表理事）
 - 3) 市長公演
「これからの中野市 ～信越9市町村広域連携広域観光連携を中心に～」
 - ・冒頭のあいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - ・変化への対応について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - ・人口減少と北陸新幹線開業について ・・・・・・・・ 3
 - ◇人口減少について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - ◇北陸新幹線開通について・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - ・中野市のポテンシャルについて・・・・・・・・・・・・ 5
 - ◇中野市の豊かな観光資源について・・・・・・・・ 6
 - ・地域ブランドコンセプトについて・・・・・・・・・・・・ 6
 - ◇中野市の地域ブランドづくりについて・・・・・・・・ 6
 - ◇シティーセールス戦略について・・・・・・・・・・・・ 7
 - ◇地域のコンセプトについて・・・・・・・・・・・・ 8
 - ・地域力UP総合戦略について・・・・・・・・・・・・ 9
 - ◇地域を豊かにする経営思想について・・・・・・・・ 9
 - ・当面の施策方針について・・・・・・・・・・・・ 10
 - ◇政策ディメンションについて・・・・・・・・・・・・ 10
 - 4) 意見交換・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
 - 5) 閉会

「市長講演」

冒頭のあいさつ（わくわく市民懇談会について）

- 今日は私をお呼びいただきましてありがとうございます。今日は私が普段、頭の中で考えていることを皆さんにわかっていただきたい。それを知ったうえで、ご感想や思いをいただきたいと考えております。
- 実は、今朝、部長会議の中で、本日の資料を一部変えたものではありませんが、お話を申し上げたところです。私の頭の中に何かあるかわからなくて、思いだけが伝わっているようですが、どういう風に何をしようとしているのかということをご披露させていただき、ご感想をいただきたいと思います。

変化への対応について

- 最初に、私の問題意識はこういうところにあります。まず、「人口減少・少子高齢者社会」です。全国各地で人口が減少していくなか、我が中野市も人口推計によると3万5千人になるのも時間の問題です。
- もう一つが、「北陸新幹線開業」であり、あと1年11カ月もすると新しい世界が開かれることとなります。私たちはそういった大きな時代の変化にいるんだということを認識していただきたい。
- 「課題先進国日本」と記載していますが、日本は世界の中で先頭を切って高齢化社会を迎えようとしています。2030年頃には中国も日本と同じような状況を迎えると言われるなかで、今、私たちがこの課題に対して克服し、ノウハウを蓄積することで、それがモデルとなって海外で売ることができると主張する人がいます。日本が高齢化社会を乗り切ったならば、先進国であると言われるだろう。高齢化社会を前向きにとらえようとする人がいます。
- 政府は「地域主権」だとよく言うが、それは地域にもう少し自主的に動いてもらい、それが国家としての活性化につながるという発想があるからです。
- また、道州制のように、広域で物事を考えることによって社会の効率性を考えようとする動きが見られ、これは今の社会のトレンドであると考えております。

- 一方で、中野市において広域性という点では、北陸新幹線というのは避けて通ることのできない問題であると考えております。経済というのは、人が動いて得られる付加価値であり、どれだけ事業や生産活動を行ったか、人が動いて経済が動くという、並行的に動くものという考え方であります。そこには、人を相手に必ずビジネスというものがあります。
- 中野市の外国人登録をされている方は、きのこ産業等の理由から北信6市町村で最も多い状況であり、国際化という波がすぐそこまで来ていることをご承知おきください。例えば、ニューヨークで日本と言えば、スノーモンキーと言われるほど、知名度があります。また、ある大学教授は、世界で最も長寿の国の日本にあって、長野県は一番の長寿の県として、外国人には「長野」と聞けば「長寿」というイメージが刷り込まれており、長野県は今後、長寿の国として売り込んでいく余地があると言われております。

人口減少と北陸新幹線開業について

- 「農業就業者の高齢化」、「中心市街地の空洞化」、「高齢者社会の安心安全確保」、「教育・福祉 子育て環境の整備」と課題の山積する中で、経済社会構造が変化し、「国際競争」、「都市間競争」、「地域間競争」の波が押し寄せてきます。これからはどこの地域が住みやすいか、暮らしやすいかということを求め、人口移動が始まるのではないかと考えております。
- また、直近課題として挙げている北陸新幹線の開業では、このエリアの外から人が入って来る、また、通過していくということになります。信越9市町村でもそれぞれ観光施策を取り組んでいきますが、これからは、上信越国立公園エリアと金沢を中心とした飛騨高山白川郷・五箇山エリアとの観光客の取り合いになるということをJR東日本の常務さんがおっしゃっていました。上越まではJR東日本、上越から西はJR西日本の管轄であり、JR東日本としてもそれぞれ独立会社であるため、できればJR西日本に観光客を取られたくない、JR東日本圏域で旅行客を増やしたいという思いを持っています。また、新幹線が開業したら、第3セクターの在来線のほくほく線は不要ではないかと意見もあるが、JR東日本としては、ほくほく線があることで、上信越国立公園をぐるっと囲むような鉄道領域が完成し、上信越国立公園周辺地域が盛り上がりによって、JRの収益も増加すると考えておられます。

- 先日、東京に出張した際に、JR大森駅のびゅうプラザに置いてあった観光パンフレットには、既に「信越自然郷」としてこの地域の宣伝をしていました。この地域をどうしていきたいか、早く決めないと取り残されてしまうというのが現状です。JRが観光キャンペーンを行うのは1年前からであり、新幹線が走ってからPRをしても遅い。開業に向けた準備も同様に、駅名、看板、切符など全て早めに準備されており、準備期間を考えるとこの自然郷についても、もう既に着手する時期に来ていることを承知していただき、私たちがこの地域を売り込むことができる瞬間を迎えていることを押さえておかなければいけません。

人口減少について

- まず、6市町村で考えると、2000年と比較し、既に12,544人減少し、既に人口減少が進んでいます。
- 信越9市町村で見れば、総面積は愛媛県の約9割、可住地面積は奈良県の5割程度で人口は15万人、人口密度はルーマニアと同じ程度で、製造品出荷額は高知県の6割ぐらいで1県に匹敵するぐらいの経済活動の総量を持っていることをご認識いただきたい。また、課税所得でいうと、鳥取県の4割ぐらい、商品販売額でいうと、世界的に有名な観光地である鎌倉市と匹敵するぐらいです。
- 信越9市町村が協力したらどうなるか、やっぱり力強いものになるだろうと考えます。

北陸新幹線開通について

- JRからいただいたデータによると、長野新幹線は、利用者が開業前に比べ開業直後には25%増加し、9年目には42%増加しました。金沢延伸に伴い、8両編成から12両編成に増両し、新幹線を運転すると聞いています。1両あたり定員が100人であり、1回あたりの輸送人員が400人増加するため、1日の運行本数が27本とすると、約10,000人増加します。
- 北越急行の輸送密度と比較すると、平成15年の1日における輸送密度が7,400人であり、ほぼ同数の人員が北陸新幹線に振り替ってくる計算になります。このうちの何割かの人に飯山駅で降りてもらったとしても、人流が増えるであろうし、すごい効果がある。また、この地域を知ってもらえる絶好の機会であろう。

- 新幹線の通過駅であるため、このように取り組みを行わず、取り残されてしまったのが、秋田新幹線の田沢湖駅であったと言われております。駅舎が完成し、新幹線が開通してから観光誘致の取り組みを行いはじめ、現在、真剣に取り組んでいるが、それでも遅い。他はどんどん拠点を作っておもてなしの体制を整えているので、やっぱり事前にやった方がそれなりの効果が上がってきます。
- これだけ多くの人々が動くと言うことを考えると、自然とビジネスチャンスも生まれてくるし、いろいろな取り組みを行わなければならない。

中野市のポテンシャルについて

- 中野市の持っている力としては、四季がはっきりしていて自然環境が豊かであります。また、人文環境もすごくて、千曲川沿いを少し掘ればいろいろな遺跡が出る。歴史的な成層をなしていろいろなものが積み重なって出来上がったもので、私たちには誇るべき歴史があり、文化があります。もう少しみんなで自信を持ったらどうでしょう。地域の資源をもう少し掘り起こしてみることも必要です。
 - 私が以前、横浜にいた時に、横浜についてもっとよく知っていただくとする「横浜学」についての仕事を受けたことがあります。また、京都では「京都学」というのがあり、京都についてどれだけ知っているか検定試験をやるほどです。それくらいやることによって自分たちの地域に愛着を生んでいくような作業も必要です。
 - 産業立地については、ある県議からも中野市がうらやましいとの発言をいただいた。中野市は「農」・「商」・「工」とバランス良く存在しており、こんな地域は他にはないとお話でした。私も同感です。従来からバランスの良い産業立地がありました。中野市は昔から産業で生きているところであるため、観光については関係ないやという考えがあったかもしれません。でも、違います。産業観光があります、農業観光があります、商業観光があります、観光というのは、農商工とは別の概念で存在し、これらを結び付けて外へ向けて情報発信をしていかなければなりません。そこで、情報発信につけて新たなコンセプト、皆さんの共通概念を持ってもらいたいということが私の思いです。
- ※ ここで、アメリカのウエストバージニアと中野市の風景を比較し、風景が似ており、素晴らしいところに住んでいることを説明

中野市の豊かな観光資源について

- 中野市には、有形文化財が 29、無形文化財が 1、有形民俗文化財、無形民俗文化財、史跡、天然記念物、音楽家とたくさんあります。中野市から生まれ育った画家や音楽家や現在活躍されている人など、ものすごい数があります。こういう方について、私たちは知って、関係性を持って活用していかなければいけません。こういった資源のある中で、ブランドというものを考えてみたいと思います。

地域ブランドコンセプトについて

- ブランドという物産品を考えます。リンゴで作った○○、えのき茸で作った○○など、農商工で連携して作り上げたのもブランドです。しかし、私は地域としてブランディングをしたいと考えています。
- ブランドとして確立されている地域というのは、地名が広く知れ渡っています。そこで、今、信州中野市に市名を変更しようとする方たちもおりますが、私が理想としているのは、松下電機産業とパナソニックです。会社名は「松下電器産業」でブランド名は「パナソニック」であり、ブランド名が「信州中野」で売れるのであれば、市名は「中野市」のままでいいと考えています。コストも考慮し、市名変更によって経済効果があるのであればやってもいいですが、今のところ、私は結論を出していません。いずれにしても地名が広く知れ渡っていることが重要です。また、地名を聞いて豊かな連想の世界が広がるということが条件になります。
- たとえば、仙台の場合では、杜の都と言われ、牛タン、伊達正宗、笹かまぼこ…といろいろ連想できると思います。パリであればルーブル博物館…と同じように、中野市が語られるようになったらしめたものです。

中野市の地域ブランドづくりについて

- 地域ブランドの確立です。リンゴやさくらんぼ、えのき茸が日本一、そういったものがどんどんつながっていくことが大切で、外の方に地域資源を知っていただくことが重要であると考えます。今までにこの地域がまとまって外に向かってこの地域を売り込んだことがあったでしょうか。それぞれで頑張っていました、いろいろな方向を向いていたので、これからの中野市はこうなんだというみんなが協調して行っていくべきだというのが私の考えです。

- 中野市を連想してみて、いろいろなものを並べて、関連性を調べていくとつながりが見えてきて、ストーリーも見えてくるので、それを持って外へ発信していくいろいろな情報発信をすることができます。
- 中野に呉服屋さんが多いのには、理由があると思う。それは、昔、大奥の女房たちが京都のファッションをいち早く取り入れるため、部下を京都に常駐させていました。また、中野という地域は、昔は3日もあれば江戸文化が伝わってきていたといわれるように、天領であることで江戸と直結をしていた土地でありました。
- 18代目の当主で今の徳川記念館の館長の碑が柳長さんの前に建っています。天領の中でそのような碑が建っているところはなく、3大天領と言われるくらいなので、今のご当主がご健在のうちに「天領祭」でもやったらいいと思います。喜んでご当主が来てもらえると思います。
- これからは何か結びつけて、中野市のいいところ、歴史や文化、生産物などをストーリー性を持たせて情報発信していくことが必要だということです。

シティーセールス戦略について

- 先日は、東京にきのこを売りに行きましたが、きのこだけでなく、中野市そのものを売りたい。組織としては先の話になると思いますが、できれば市役所の中に営業推進部を作りたい。営業して何でも売り込んでいきたい。営業マンはたとえ自分の担当部署でなくてもお客様の要望であれば、他部門の商品を売ってきます。
- 中野市のブランドイメージを高めて経済を活性化させて市内総生産をあげることで、農家の収入を増やしたり、さらに経済が活性化できればいいと思います。そのためには、中野市の魅力を外に発信していくことが重要です。ただし、中野市のブランドコンセプトをみんなで思いを一つにしなければいけません。皆さんに信州中野にまず愛着を持ってもらうことが一番です。何をやってもあきらめず、考えればいいのです。
- 「千年風土の豊穰の地 信越自然郷」は信越9市町村の共通コンセプトです。この地域は本当に自然豊かですが、中野市は面積の70%が可住地であり、森林面積は30%しかありませんので、中野市の皆さんにとっては、森は全て借景です。
- このコンセプトに私が個人的に付け足したものですが、「日本の黎明期 農耕栽培

をはじめた豊穰の土壌 豊穰は唄となり、やがて童謡と唱歌の故郷、自然と共生する暮らしのある、癒しの地となった」ということをうたい、信州中野をPRするビデオを作り、一度、東京で流してみたいと考えています。おそらく、みんなおおっと思うと思います。

- 私は、新幹線の駅の待合室に大画面のモニターを設置し、信州中野をPRしたいと考えています。たとえば、野沢温泉にスキーに来た人がバスを待っている間に中野市のPRビデオを見てもらったとしたら、今回は行けないかもしれませんが、次回行ってみようという気にさせることができると思います。

地域のコンセプトについて

- 一定のコンセプトを持って売り込むことは大切であり、皆さんには広域観光連携によって信越自然郷を作ろうということをお願いしたいと思います。この中で中野市の特徴をブランドとして売り込んでいかないといけません。中野市のブランドを考えるとすることは中野市の特徴を考えることになり、他とは差別化を図らなければいけません。
- 例えば、今の総合計画に掲げられている「緑豊かなふるさと 文化が香る元気なまち」というので、どことも差別化されていません。文化の香り高いところはたくさんあります。また、森がいっぱいあるところもたくさんあります。そうではなくて、中野市の特徴を出して差別化していくことが必要です。童謡と唱歌といったら中山晋平さんと高野辰之さん、音楽家といったら久石譲さんもいるし、他にも音楽家は多いです。そういった人たちが輩出された土地なんだということでラベリングしていくことが必要です。
- 中野市のブランドを作っていくためには、まずは各地区のブランド作りが必要です。倭地区は北の玄関口になりますが、自分たちはこの地域をどうしていきたいのか、どう位置付けたいのか、具体的に考えていただきたいと思います。そのためには、地域力が必要になります。

地域力UP総合戦略について

- 「地域力」の定義ですが、「地域社会の課題や問題について、市民や企業をはじめとした地域の構成員が、自らその問題の所在を認識し、自律的かつ、その他の主体との協働を図りながら、地域問題の解決や地域としての価値を創造していくた

めの力」です。こういったことができる地域は地域力があると言われます。

- 小田原市はこういったことに取り組みました。小田原は小田原城があるだけの通過駅でしたが、地域住民が協働して、何もなかったわずか50mばかりの距離に「オシャレ横丁」と名を打ち、ブティックを集めてまちづくりを進めたところ、街並みが変わり始めました。小田原市のように「交流」・「連携」・「協働」の推進ということで、まずは自分たちで関わって、地域で協働して、自分たちの地域をどうしたいか考えてみてください。ここから全てが始まります。
- これに対して行政がどうするかということですが、お話を持ってきていただいて、それに対してどうなのか、どう地域づくりをしていけばいいか、ご相談しながら進めて参りたい。こういった地域がそれぞれ特徴をつなげて、中野市のブランドが成立していくものと私は考えています。ベースは同じ地域ですので、全く違ったものが出てくるとは思いません。

地域を豊かにする経営思想について

- 松下幸之助の言葉に「理念のないところに経営の成功はない」という言葉があります。最近「自治体経営」や「地域経営」と言いますが、地域経営や地域創造の担い手には一定の識見と理念がなければなりません。学んでいただきたいことは学んでいただきます。話を聞きたいという場合には、呼んできます。話を聞いて機会を得て、頭の中の構造を変えていただきたい。
- 日本の伝統的価値観としての経営理念にあるメッセージは、江戸時代や戦国時代の家訓というものと共通しています。こういった観点を土台に皆さんにも地域づくりを考えていただきたい。それによって経済的な幸福のみならず、非経済的な幸福を含めて幸福度をあげていただきたい。

当面の施策方針について

- まず、情報発信をするために、いろいろなことにトライします。ツールも考えたと思いますが、誰が、どこで、何を、どのようにやっているか、情報がほしいです。できるものであれば、それをつなげて横串にして情報発信をしていきたい。
- お祭りもそうです。街の中にある3つのお祭りだけがお祭りではありません。皆さんの地区のお祭りにも興味を示す方が多々います。そういうことを市として情報

を集めて情報発信をしていくことも必要だと思います。

- 次に、観光拠点を創出する必要があります。特にこの地域の皆さんには期待しておりますので、場所とかゾーニングなど戦略的なことを考えていただきたい。
- あとは、地域内の情報を共有し、連携を推進しましょうということです。中野市ということではなく、広域で考えています。例えば、高橋まゆみ人形館に行った方にさらに古く素朴な土人形を見ていってもらいたい、という具合に連携を取っていくと人の流れは変わります。先日、東京の雅叙園で土びなの展覧会があり、6万人を目標にしていたのですが、期間の半分にして6万人を達成するほどのすごい人気がありました。そこで中野市もだいぶ有名になったと思います。

政策ディメンションについて

- 私が今回の予算付けでやったのが、経済産業と音楽・文化の二つに分けましたが、真ん中にある考え方は交流連携であり、物事を考えたいと思っております。
- また、農商工連携事業で一つ成功例を出したいと考えていますし、空き家対策では、中心市街地のみならず、農村地域の空き家もうまく活用できないか戦略的に考えたいと思います。農商工連携といっても問題は経営力であり、ビジネススクールみたいなものを作り、講師を呼んできたい。特に次世代を担う若い人たちに受講していただき、起業家になっていただきたい。
- さらに、新幹線対策、音楽教育の充実、郷土の歴史文化共有、医療ツーリズムなどの政策を考えています。ご関心のある方は私のやりたいことをいろいろ貼ってありますので、市長室に来てみてください。今は優先順位をつけて、関連性のあるものをまとめ、物事を考えるようにしています。
- 中野市の地図に拠点を落としてみると、南の方は中山晋平記念館などありますが、北には何もなく、新幹線利用者の入口にあたるため、何か拠点がほしいと漠然と考えています。動線としては、須坂や小布施から来た人を南から北へ流していきたいと考えています。
- 新幹線の駅ができた時に、倭地区は重要な入口になるので、人をひきつける場所にしたいと考えています。そのためには皆さんには、何をしたらいいか考えていただきたい。このことは今日私がお邪魔して一番お願いしたいことです。

- 私は、地域の皆さんに地域のいい写真をどんどん撮ってもらい、それを集めて信州中野百景のようにしてスライドで流してもいいのではないかと考えています。
- 北の玄関を固めると書いていますが、これは至急やらなければいけないし、看板も立てなければいけないし、道路に道の名前もつけたいなど考えています。今までとは違った観点で人が流れます。人が流れれば何かが売れます。まずは、人に動いてもらうという政策を行って参りたい。

意見交換会

Q :	大阪から西の人たちは、長野と言ってもわからない。信州と言えば安曇野しかわかってもらえない。また、お年寄りには長野と言えば善光寺を連想する。西日本の人たちは長野県をよく知らないなので、東京ばかりでなく、西日本にも中野市の宣伝をしてほしい。
A :	<p>当然、西の方にもどんどん進出したいと考えている。映画の舞台で中野市を使ってもらい、その際に売り込んでいくことも考えているが、相手がある話なので、その機会を伺っている。そこで売り込むためには、魅力を知っておいてもらわないと相手方も入り込めないと思う。</p> <p>豊田地区では昔、鳥取だったかどちらかの都市と姉妹交流があったと聞いている。現在、西日本と関連性の保たれているところから関わっていきたい。</p> <p>いずれにしても、首都圏ばかりでなく、関西圏にもしっかり売り込んで参りたい。</p>
Q :	<p>科野・倭地区で高社山活性化という研究会があった。現在は眠っているが、北部広域農免道路ができる前からいろいろ計画を立ててきた。現在の北部広域農免道路は、「田上」止まりで牧ノ入線に接続している訳だが、前の市長には、さらに「岩井東」まで伸ばすようお願いしていた。</p> <p>当時から新幹線の飯山駅ができることも見据え、計画を立てていた中で、岩井東からさらに延伸させ、「成沢山」を通過する際に成沢山をカットし、そこに避難所を作る計画もあった。</p> <p>市でもなんとかこのような計画を活かしていただければありがたい。</p>

A : その研究会があったことについては聞いたことがある。機会があれば、その研究会の中身や研究された内容を具体的に教えていただきたい。同じことを繰り返す無駄を省きたい。

Q : 実は、その研究会の会長さんが亡くなってしまい、後任者も健康上の理由で辞めてしまった。また、農協やここにいる役員さんを通じてお願いしていきたい。

Q : 現在、県道中野飯山線の工事が進んでいるが、倭地区に入り、路線がはっきりしない部分があるが、行政に地域で話し合いができる時間や場所について、ご協力をいただきたい。

A : 幹部からもいろいろ聞いており、その辺の話も承っている。道路が開くと経済が変わることはわかっているので、どういうやり方で優先順位をつけるか問題はありますが、頭の中には入っている。また、ご相談させていただくことがあれば相談させてもらいますし、今の状況を正確に確認していきたい。

とにかく道路事情をよくして、飯山駅からの二次交通をどうするかという問題もある。

私からのお願いですが、道路やインフラ以外でこの地域の財産とかこの地域の魅力をどうやって発信するかということも考えていただきたい。また、若い人の意見も組み入れていただき、みんなでこの地域を作っていくっていただきたい。今月、商工会議所の青年部やJAの青年部と話す機会があったが、次世代を担う人たちがこの地域をどうしたいか考えてもらいたい。

その一方で、私は40年ぶりに故郷に帰ってきたが、実は中野市には、Iターンなどで帰って来た優秀な人材がたくさんいる。そういった方にもご協力いただきたいと考えている。異文化交流ではないが、戻ってきた人にも是非地域活性化のために参画してもらおうような形で仲間づくりをしていただきたい。

とにかく、みんなでいい地域にしていこうという活動をしていただけたらありがたい。

Q : 県道中野飯山線の柳沢地区の仮設計を5月中旬頃、県が提案すると聞いている。地域では早く道を作っていただきたいという思いであり、県も早く道を開けたいと考えている。私どもとしても、26年の新幹線開通までに整備していただきたいという希望は持っている訳ですが、市にも是非お力添えをいただきたい。

A : 中野市の北側は新幹線を迎えるにあたって道路に問題がある。道路事情は早く解決したいと考えている。何かをやる場合は幹線道路を確保していることは大変重要である。この点については、私のある限りの力を持って陳情などを行って参ります。逐次ご報告させていただきますので、ご理解をいただきたい。

Q : 今、畑が非常に荒れていて困っている。現在、農業に従事している方に拡大をしてほしいというのは無理であるため、会社を退職された方などを都会からも含めて集めてチームを作ってもらい、ぶどう栽培やワインを作るなどして地域の活性化につながれば良いと考えている。

まずは、簡単な営農体験から始まり、3回・4回と回を重ねるうちに田舎へ移り住んでもらい、農業に従事してもらうことを考えてもらうこともいいかもしれない。

A : 援農隊などという名称で既に取り組んでいる団体があるが、その他にもいろいろな手立てはあると思う。都会の人がこちらに移り住むには、一定の農地付きの家があればいいと言う人もいる。移り住んで来た時には農業について何もわからないので、教えていただける指導者がいるかなど受入体制を整える必要がある。

いろいろなアイデアの中で、できるところから試行していただきたい。実際にやってみて考えを直していくことができれば良いと思う。

最近、農業に興味をもたれた若者がいる。その方たちをどう活用していくか、そこで学んだことをどう商品開発などにつなげていくかというような活動を展開したいと考えている。また、そのような活動をしていただける団体には、助成金をつけたいと考えているし、是非、活動してもらいたいと考えている。これを行政が率先して行うことは難しいが、むしろそういう皆さんをサポートしてトライしていきましょうという考えを持っている。

Q : 岩井は備中守の出身地、田上には七ツ鉢、柳沢には遺跡と有名なものがある。たかやしろを後ろから登ることを考えてどうか。ほとんど登山道がつながっているので、少し整備をすれば頂上まで登ることができると思う。自然というのは頭に浮かぶが、それらをどういう風に結びつけていいか頭が回らないため、若い人にもご協力をいただきたいと考えている。

牧ノ入も倭の一部であるので、その辺りも忘れずにお願いしたい。

また、長野電鉄の廃線路があるが、普段は草や藪で野生鳥獣のすみかとなっているため、何か対策がないものか。廃線路を活用してなんとかして野沢温泉

までつなげられないか、そうすれば、野沢温泉と小布施までつながるので、何かには使えるのではないかと思います。

A： 廃線路の草がぼうぼうとしている箇所については、対策を講じてもらうよう要請がきていることは承知している。

先日、立志館高校と協定を結び、また立志館高校は長野大学と協定を結んだ。また、東京には知り合いの大学教授もいるため、学生を借りて若い人の目で地域を見てもらうという作業をしていきたいと考えている。

いろいろいただきましたアドバイスを参考に事業を進めていきたいと考えている。

【事務局に対する要望】

- ・ この会をまた来年、それ以降に続けていただきたいという要望をいただき、会場の拍手を得る。